

## 長岡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（素案）に寄せられたご意見の概要

### 寄せられたご意見（1）

事業系及び家庭系の生ごみの活用、バイオマス技術を活用した生ごみのガス化・発電など、生ごみ資源化の取り組みについて

#### 【意見の要旨】

生ごみをバイオガス化することによって、焼却ごみの一部である生ごみが資源活用され、新たなエネルギーを生んだり、温暖化の予防につながる事業と思う。メタンガスの活用については、下水処理過程で発生するガスを北陸ガスに供給しているなど、長岡市では既に成功事例があるため、これを基本に「長岡型」のバイオマス資源活用を推進していただきたい。

「長岡型」のバイオマス資源利用の形態は、あえてコスト増となる「発電」にこだわらず、コンパクトでローコストなシステムを導入検討すべきであり、広域収集によるコスト増も考慮して、プラント規模は大型にせず中規模以下に抑えることが現実的と思う。

また、計画においては既存施設の機能を補完し合うような仕組みが考えられる。

長岡市においては、二酸化炭素等削減の温暖化対策と生ごみの資源化による削減効果を損なわない形での事業化をお願いしたい。

### 基本計画の考え方

市では現在、バイオガスのエネルギー利用法について、有識者・関係事業者等で構成した「新エネルギー導入検討委員会」の意見をお聴きし、ガス発電（コジェネ）とガス供給（売却）の両面から利活用の可能性を探っていますが、民間ガス工場やごみ焼却施設、下水道処理施設の周辺に立地することで相互の機能を補完させ、より合理的な施設整備を行うことが最適な方法であると考えています。

施設整備にあたっては、基本となるシステムフローをもとにコスト分析を進めていき、生ごみ回収量の予測を十分に行ったうえで、回収量（効率）に応じた段階的な施設整備を行うことが現実的な方法であると考えます。

市では今後、既存のごみ焼却施設の統廃合などを視野に入れながら、ごみ処理事業全体のコスト削減を目指すと同時に、生ごみの焼却～埋立処分からの転換により環境負荷の低減を図るなど、費用対効果やライフサイクルアセスメント、さらには維持管理等の視点から、市民の理解が十分に得られるような処理システムを検討し、新エネルギーの利用促進と環境に調和したまちづくりの拠点施設としての施設整備を進めてまいりたいと思います。

## 寄せられたご意見（2）

### 【意見の要旨】

個人でごみを減らそうとしても、業者がごみを増やしているので困ります。

例えば、商品の陳列や緩衝のための二重包装などは、その大半が資源ごみになるとしても、資源ごみなら増やして良いとは思えません。また、スーパーのレジで、こちらが断らない限り過剰包装されるのも困ります。「割り箸を付けますか」という店員に安易に「います」という消費者も多くいます。

エコバッグ持参者は、めったに見たことがなく、いちいち断っている自分の方が肩身が狭い思いをしています。

このような状況を改善するため、行政は、市民や業者にもっとごみ減量を働きかけてほしい。また、コーティング加工された紙類も資源ごみとするなど適用範囲を広げてほしいと思います。

## 基本計画の考え方

基本計画の目標は、廃棄されるごみと資源物の総量を減らすことです。そのためには、一人ひとりの市民、事業者、市が、ご指摘のような取り組みを進めていく必要があります。

基本計画では、市民、事業者、市の協働でごみの減量と資源物のリサイクルを推進し、“もったいない”の心で循環型のまちづくりを進めることを基本方針に掲げました。

具体的には、市民に簡易包装の商品や環境に配慮している企業の製品を選択することやエコ（マイ）バッグの持参などを求めるとともに、事業者には、ごみになりにくい製品の製造・販売や包装の簡易化などを求め、市はそのための情報提供や啓発活動を強化することとしています。

なお、資源物の範囲につきましては、国の動向に合わせて拡大していきます。併せて、リターナブルびんや牛乳パック、白色トレイ等のように、民間ルートを活用したリサイクルも推奨していきます。